

平成 26 年 10 月 27 日

松阪市議会
議長 水谷 晴夫 様

研 修 報 告 書

研修参加者：田中祐治
中村良子
中瀬古初美

記

- 1、日 時 平成 26 年 10 月 15 日 (水)
- 2、研修会場 法研中部ビル 8 階第 4 会議室
- 3、主催 東京インタープレイ株式会社
- 4、内容 タブレット体験セミナー
(自治体向けタブレット端末 I C T 推進セミナー)

自治体におけるタブレット端末を活用した業務の効率化とペーパーレス会議について

講師 君島雄一郎（アイシーティ推進部会）

○自治体運営に必要なのはICTのチカラ

1、タブレット端末の誕生と衝撃

当時、iPadは、「iPhoneが大きくなっただけ?」「タブレットって何?」というような風潮であった。「紙の代わりに本や書類を見るための端末としては、これほど最適なものはない」という衝撃を受け開発をスタートさせ、2010年12月、東京インタープレイ株式会社がサイドブックスを発表。

その後、1月には、iPadやiPhoneにアプリを配信する「アップストア」にて総合1位となる。つねに60万人以上のユーザーが使用しているアプリケーションになった。

2、加速する民間企業での採用

多くのユーザーが利用することで膨大な開発要望が寄せられた。「PDFをより快適に見るための機能」「シンプルで使いやすい機能」設計当初のコンセプトはそのままに利便性の高いアプリケーションとしてバージョンアップを重ねてきた。

タブレット製品は2010年のアップルからのiPad発売以降アンドロイド端末も数多く発売されている。

2013年頃からパソコンより、タブレット端末の売上げが急激に上がってきている。これは、「シンプルで直感的に使いやすい」「価格が安い」「ほぼパソコンでやれることができる」など潜在的なニーズへのマッチングをした結果であった。

3、自治体での業務効率化の手応え

タブレット製品を導入する民間企業が増えるにつれ、サイドブックスへのペーパーレス会議の問い合わせが増え始めた。

2012年から逗子市議会とのペーパーレス議会実現へ向けた開発がスタートする。自治体側の議会準備の負担軽減、議員の利便性、全体のコスト削減など、さまざまな業務の効率化が図れるシステムとして「サイドブックス・クラウド本棚」のサービス開始。

「経費削減」「労務削減」はもとより、議員活動においてもっとも重要な「ICTを利用した審査能力の向上」「議会報告会などの市民への説明会などでの利用」など複合的なメリットも出てきた。また、執行部でも採用され、議員同様

の効果がある。

○タブレット体験

実際にタブレット端末を借り、逗子市議会の事例、導入検討のプロセス等を聞きながら操作説明を受けた。サイドブックス・クラウド本棚とは、「議案」「行政計画」「員会資料」「例規集」「その他会議資料」など、従来の「紙」を使用し配布されていた資料をタブレットやパソコンで共有する仕組みであることがわかった。

所感

導入前の課題としては、当然予算や運用に関するルールや情報であることからのセキュリティ問題、未経験者や苦手意識のある者への対応等共通の問題点があると思われる。どの議会でも同じような課題であると思われる。

急速に普及をしているタブレット端末を利用したペーパーレス議会、そこからスタートする自治体運営でのICT活用は、業務効率化や人口減少に伴う問題にも有効な対策になりうると考える。効果は、コスト削減だけでなく、審査の効率化、情報開示の取り組みや労務削減、ICTをいかに議員活動に取り入れるか、有効性が多々あることがわかった。

松阪市においても、行政もICT活用について力を入れているが、ペーパーレスでICTを活用した議会運営への取り組みの議論が必要であることを再認識した。